

パプアへきよう出発

吉田医師

AMD A 「救助に全力尽くす」

国際医療援助団体「AMD A (アジア医師連絡協議会)」(本部・岡山市)のメンバーで美馬郡脇町猪尻の「ホウエツ病院」医師吉田修さん(三〇)麻植郁山川町前川、徳島で国際協力を考える会会員IIが二十四日、地震による津波被害で数千人の死傷者・行方不明者を出しているパプアニュー

ギニアに向けて出発する。米に拠点を置くNGO(非政府組織)「プロジェクトHOPEジャパン」が派遣するレントゲン技師とともに被災地入りし、緊急援助に従事するため、八月一日の帰国予定まで医療活動する。

AMD Aは、現地のほとんどの負傷者が骨折しているため、ニーズが高い外科の吉田医師派遣を決めた。吉田医師は、成田空港からオーストラリア経由で首都ポートモレスビー入り。二十六日、被災地アイタベに入る。被災現場では、二十一日に出発したAMD Aメンバー三人(外科医二人、看護婦一人)と合流、状況を把握しながら医療活



動を続ける。二十一日夜、AMD Aの出発要請を受け、吉田医師は、勤務する病院や週末診療に当たっている「木屋平診療所」などに協力を求め、了承された。

十七日夜の津波から六日に入った被災地では多くの死傷者が出ているほか、食糧などの物資が極度に不足しているもよう。吉田医師は「どういふ状況か詳

しくは分からない。先発隊と情報交換しながら、被害の一番大きい場所を中心に負傷者の救助活動に全力を尽くす」と話している。吉田医師は一九八九(平成元)年、青年海外協力隊員としてアフリカ・マラウイで活動したのを皮切りに、九四年からはAMD Aメンバーとしてアジア、アフリカなどで国際医療活動に従事した。現在はアフリカ・ザンビアの栄養改善活動などに力を入れている。

新聞でパプアニューギニアの被災状況を確認する吉田医師(脇町のホウエツ病院)